

12 食卓でできる「いきもの観察」(絹さやエンドウ編)

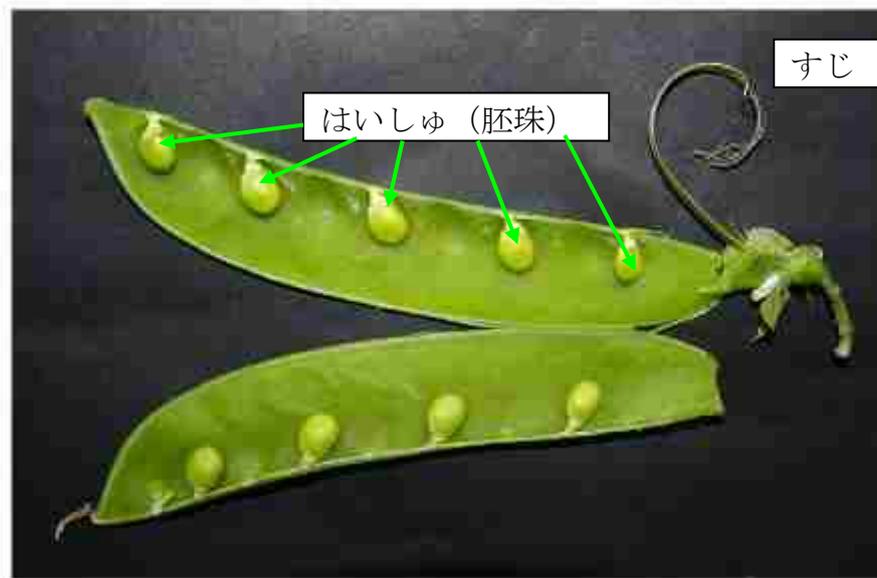
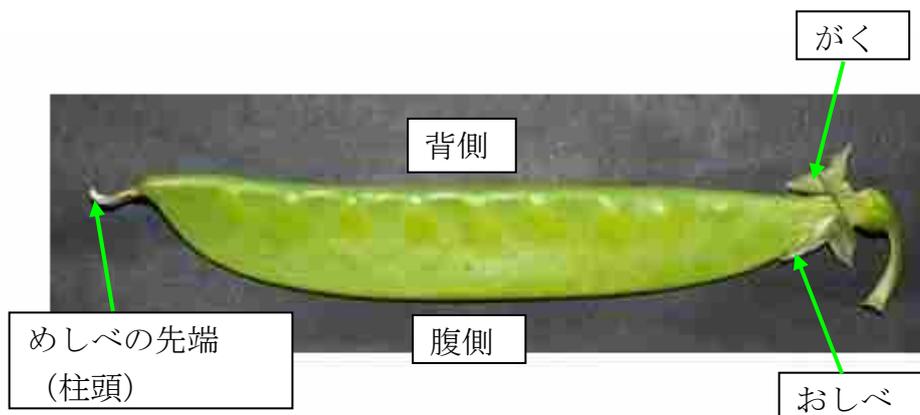
用意するもの

絹さやエンドウ、カッターナイフ (またはカミソリ)、ピンセット

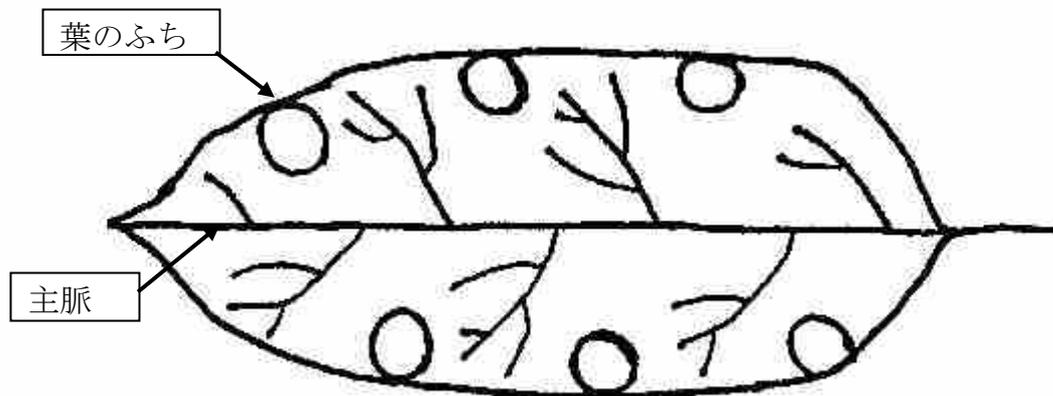
やりかた

- 1 絹さやエンドウを観察し、おしべやめしべの先がついているものを取り出す。
- 2 取り出した絹さやエンドウの背側のすじを取り、さやを開き、観察する。

観察例 (平成22年5月23日撮影)



「はいしゅ (胚珠)」というこれから「たね (種子)」になる部分が観察できます。胚珠は上と下で交互についています。



参考

もともと花を形作る「がく」、「おしべ」、「めしべ」は葉の変形したものと考えられています。めしべの子房を形作っている葉を「しんぴ（心皮）」といいます。

葉とエンドウのさやを開いたものを比較してみると、さやの背側の太いすじは、葉のふちにあたり、腹側のすじは、葉の主脈にあたることがわかります。

つまり、エンドウのさやは、1枚の葉が内側にたたんでふちがくっつき、その内側に種子がついていると考えられます。

参考文献

牧野晩成（1978）グリーンブックス 44 果物と野菜の観察、ニューサイエンス社